



# やわらぎ会通信 Vol.46

耳より  
コーナー



4月から、新しく半澤先生がスタッフに加わります。  
半澤先生について、簡単ですが紹介します。

(((((((  
)))))  
( o ((

**名前** 半澤 泰紀 (ハンザワ ヤスノリ)  
**生年月日** S50年 1月 7日 (30歳)  
**出身校** 広島大学歯学部 (H12年卒)  
**趣味** バレーボール・剣道・スノーボード  
**血液型** O型  
**先生からヒトコト**

たくさん笑って楽しい毎日を…  
私とともに!!



立春・雨水・啓蟄そして春分・清明 (せいめい=草木が芽吹き気配は清浄で美しい) と季節は冬から春へとかわりました。これらは二十四節季の名称です。何時ごろ作られたのかわかりませんが、うなづいてしまいますね。名づけた昔の人はすごいですね。

昔の人といえば、先日、キトラ古墳(7世紀末～8世紀初め)で見つかった人骨や歯の写りが新聞に出ていました。やはり歯に目がいてしまいました。普段私たちが目にする歯とあまり変わりなく、しかも虫歯らしいものが写っていましたね。今のように歯ブラシもなく、予防の方法も確実ではなかったでしょう。虫歯の治療方法もなく、痛かったでしょうね。今の時代に生きてよかった...です。

## 個人情報保護法施行にあたって

個人情報の保護に関する法律「**個人情報保護法**」は平成15年5月に成立し、来月4月から施行されます。これは個人情報を取り扱う事業者が個人情報の収集・保管・利用を行うにあたって守るべき事項を定めたものです。医療機関も対象としており、本人および代理人からの開示・訂正・請求も認めるものとなっています。

医療の場における個人情報とは、診療録(カルテ)、診療報酬明細書(レセプト)、検査記録などの内容、受診の事実、容貌、思想、信条など医療機関として最優先に保護すべき情報と言うことができます。また診療情報には二面性を有している部分があります。というのは診療録(カルテ)には患者様についての客観的データだけでなく医師の行った判断や評価が含まれます。全体は患者様個人に関する情報ですが、あわせてカルテを作成した医師の判断や評価は医師の個人の情報でもあります。したがって患者様と医師の双方の個人情報という二面性を持っている部分があります。

とは言っても歯科医療の場合は目で見てわかる部分が多いので、これらの二面性は少ないと考えられます。むしろどのような治療を受けるかという判断に対する情報提供の意味合いが強いため、保険診療で治療内容や使用する材料に制限がある部分について、患者様に情報を提供し、選んでいただく必要があります。これを自己決定権といいます。これは自由診療においても同様です。

やわらぎ会歯科診療所では今までもカルテ・レセプト公開医療機関として、患者様の個人情報の保護や開示に全力で取り組んで参りました。個人情報の取り扱いについてお気づきの点は、窓口までお気軽にお申し付けください。

やわらぎ会理事長 藤田 和也



“会うは別れのはじめなり”などと古い言葉もありますが、三月は別れの季節ですね。

学校では卒業式が一番格式のある行事だという理由からか、卒業式のリハーサルは念入りだった記憶があります。在校生にとっては退屈なものですが、主役の卒業生達はどこか誇らしげにも見えたものです。自分の時は、親しい友達との別れと新しい世界への期待と不安の入り混じったやや感傷的な気分だった思い出します。

大人になって感じることは、卒業は学校だけにあるのではなく、社会に出てからも何かの折り節にあるということです。ある年限が経つと自然にやってくる卒業と、自らの意思で決める卒業と。



今春、何かを卒業してステップアップを目指す方もおありでしょう。新しい世界が希望に満ちたものとなりますように、ご活躍をお祈りします。



※同封していますレセプト(保険診療報酬の明細)のコピーは平成17年2月にお受けになられたものです。自由診療のみの方には同封されていません。また患者様からのご意見・ご投稿を受け付けています。手紙・はがき・メールでどうぞ。メールアドレス yawaragi@fujita.gr.jp

平成17年 3月20日号  
編集発行人 藤田 和也  
編集者 中沖 泰三